

機械器具 51 医療用嘴管及び体液誘導管
一般医療機器 排泄バック JMDNコード70308000

スリムドレーンバック

再使用禁止

【警告】

- 1) 排泄バックをメス、ハサミ、針等により傷つけないこと。[排泄バックが破損するおそれがある。]
- 2) 排泄バックをカテーテルに接続する際は、適合するサイズのコネクターを使用すること。[【使用方法等】の項参照。]
- 3) 不十分な吸引による血腫の形成を防ぐこと。[血腫によるカテーテルの閉塞や感染を起こすおそれがある。]
- 4) 吸引操作中はエアリークに注意し、吸引が行われていることを必ず確認すること。[カテーテル刺入部や接続部からのエアリークにより、吸引不良となるおそれがある。]

【禁忌・禁止】

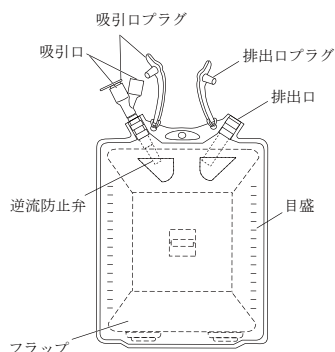
- 1) 再使用禁止
- 2) 断続的に空気を吸引する可能性のある部位にカテーテルを留置する場合には、排泄バックを使用しないこと。[排泄バックが全開し、吸引できなくなる。]
- 3) 排泄バック（平型）に使用されているスプリングは磁性体であるため、MRI検査機器等使用時には排泄バックを使用しないこと。[強力な磁場により排泄バックが機器等に吸い付けられ、カテーテルの抜去や排泄バックの脱落が生じたり、検査機器等への影響を及ぼすおそれがある。]
- 4) 排泄バックの排出口に他の吸引器を接続して使用しないこと。[逆流防止弁が閉塞し吸引不良による血腫形成や排泄バックの低圧が維持されないことによる留置部位での組織損傷を起こすおそれがある。]
- 5) 排泄バックに集液された血液を再使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

本品は、UKドレーンカテーテルに接続して体外に排出した血液、膿、滲出液等を貯留するための専用の排泄バックである。

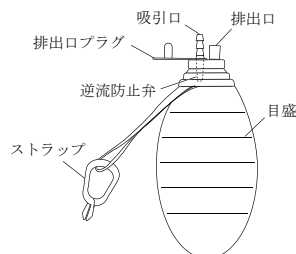
排泄バック

①平型



平型には、ポリ塩化ビニル（可塑剤：フタル酸ジ（2-エチルヘキシル））を使用している。

②卵型



【使用目的又は効果】

本品は、ドレーンチューブに接続して術後体外に排出された血液、膿、滲出液等を貯留するために用いる排泄バックであり、そのまま直ちに使用できる。

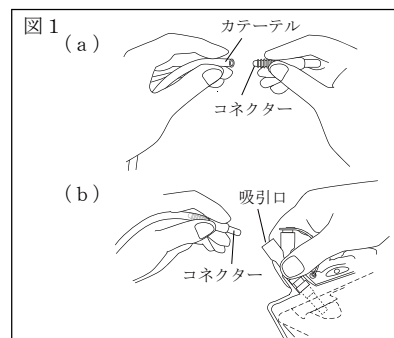
【使用方法等】

●使用前の注意

- ・排泄バックの操作は無菌操作で行って下さい。

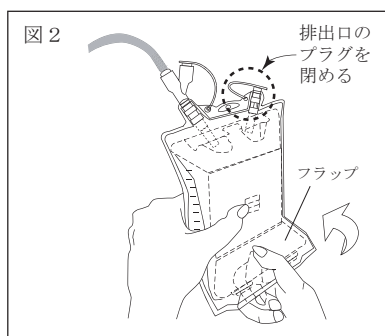
【平型の場合】

1. 患者の体内に挿入したカテーテルから穿刺針を切り離し（穿刺針タイプの場合のみ）、カテーテルにコネクターを接続します（図1 a）。
 - 注意 接続するコネクターは、UKドレーンカテーテル専用のコネクター（レザーバー用タイプ）または適合するサイズのコネクターを使用して下さい。
2. 排泄バックの吸引口のプラグを外して、カテーテルに接続したコネクターを吸引口に接続します（図1 b）。
 - 注意 排泄バックにカテーテル1本を接続する場合は、吸引口の片方は必ず閉じて下さい。
 - 注意 排泄バックの2箇所吸引口にカテーテル2本を接続する場合は、コネクターの接続部同士が吸引口の内部で干渉しますので、予め、一方のコネクターの末端を切断してから、吸引口に接続して下さい。
 - 注意 コネクターがカテーテル及び排泄バックとしっかりと嵌合していることを確認し、必要に応じて、結束バンドを併用するなどの補強策をとって下さい。



3. 排出口のプラグを閉めて、排液バック底部のフラップを音がするまで静かに上方に折り曲げて吸引を開始します（図2）。

●注意 フラップを折り曲げる場合は吸引口を持たずに、必ず排液バックの本体を持って下さい。

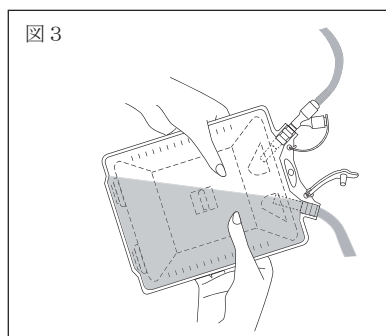


4. 排液バックに貯留した排液を廃棄する際は、排出口のプラグを開けて、排液バックの中に空気を入れ、排液バックを全開にします。
5. 排液バックの側面の目盛で排液量を確認します。
6. 排液バックを傾けて排出口より排液します（図3）。

●注意 この際排液バックの圧縮を繰り返す場合は浅めにゆっくりと行って下さい。

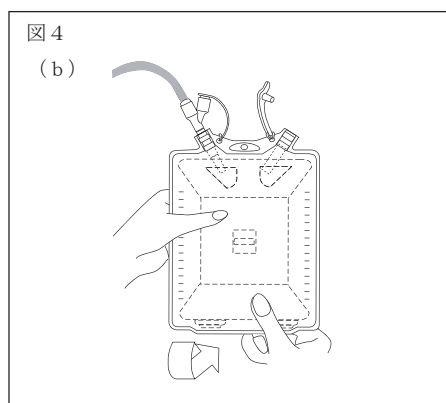
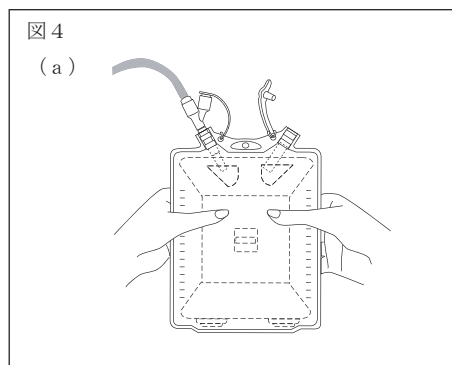
●注意 フラップを折り曲げる場合は吸引口を持たずに、必ず排液バックの本体を持って下さい。

●注意 排液バックの目盛はあくまで目安として使用して下さい。



<再作動>

1. 排液バックの中央部を音がするまで指で強く押します（図4 a）。
2. 排液バック底部のフラップを後ろにやや折り曲げて固定します（図4 b）。



3. 排出口のプラグを閉めます。
4. 排液バック底部のフラップを音がするまで静かに上方に折り曲げて吸引を開始します。

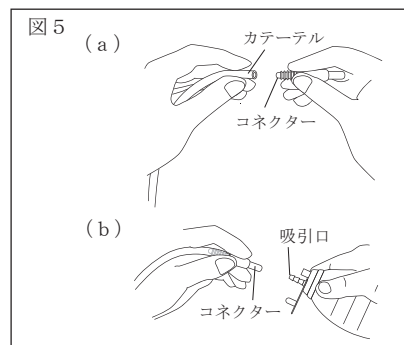
[卵型の場合]

1. 患者の体内に挿入したカテーテルから穿刺針を切り離し（穿刺針タイプの場合のみ）、カテーテルにコネクタを接続します（図5 a）。

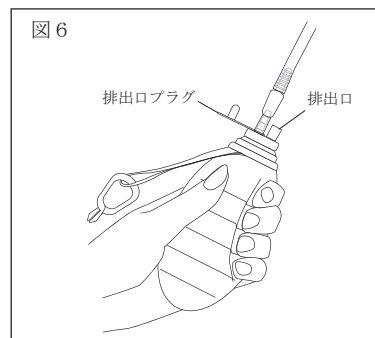
●注意 接続するコネクタは、UKドレーンカテーテルに付属のコネクタ（レーザーバー用タイプ）または適合するサイズのコネクタを使用して下さい。

●注意 コネクタがカテーテル及び排液バックとしっかりと嵌合していることを確認し、必要に応じて、結束バンドを併用するなどの補強策をとって下さい。

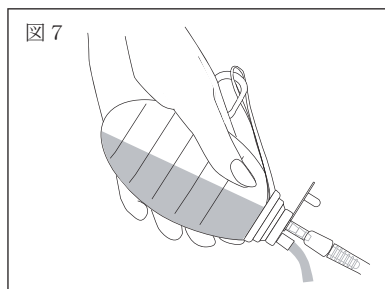
2. カテーテルに接続したコネクタを排液バックの吸引口に接続します（図5 b）。



3. 排出口のプラグを開けて、排液バックを押つぶします（図6）。



4. 排出口のプラグを閉めて、押しつぶしていた手をゆるめ、吸引を開始します。
- 注意 3、4の操作を正しく行っても、吸引が始まらない場合は、再度3、4の操作を行って下さい。
5. 排液バックに貯留した排液を廃棄する際は、排出口のプラグを開けて、排液バックの中に空気を入れ、排液バックを全開にします。
6. 排液バックの目盛りで排液量を確認します。
7. 排液バックを傾けて、排出口より排液します（図7）。
- 注意 排液バックの目盛はあくまで目安として使用して下さい。



<再作動>

1. 排液バックを手で押しつぶして、排出口のプラグを閉じます。
2. 押しつぶしていた手をゆるめて吸引を開始します。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 排液バックの使用中は吸引口または排出口に、折り曲げ方向の力が過度に加わらないよう注意すること。
- 2) 吸引操作中は排液の量や性状、吸引等異常がないことを確認すること。
- 3) 排液バックはベッド上に置かず、吸引口を上にした状態で吊り下げ袋に入れてベッドサイドに吊り下げるなど、患者と接触しない位置に設置すること。
[患者の下敷きによる圧迫、落下によって破損したり、コネクターが外れたり、排液が逆流するおそれがある。]
- 4) 再作動する場合は排液バック内の汚染に十分注意し、必要に応じて交換を考慮すること。
- 5) 逆流防止のため、排液バックは患者の留置部よりも低い位置に設置すること。
- 6) 再滅菌はしないこと。

2. 不具合・有害事象

1) 不具合

- ・接続不良による漏れ、吸引不良
- ・エアリーク（閉鎖性が維持されなかった場合、体外からのエアの流入により排液バックが全開となり、吸引不良が生じたり、排液バック内の空気が逆流防止弁をこえて体内に流入し、逆行性汚染を生じるおそれがある。）

- ・排液バックの全開／充滿（排液バックが排液で一杯になった状態で、排液、再作動操作が行われないと、持続吸引効果が損なわれ、排液バック内の排液が逆流防止弁をこえて体内に流入し、逆行性汚染を生じるおそれがある。）
- ・逆流防止弁のつまり

2) 有害事象

- ・排液への接触による感染

【保管方法及び有効期間等】

1) 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

2) 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと（自己認証による）。

有効期間：製造後3年

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（文献請求先も同じ）

ニプロ株式会社

電話番号：06-6372-2331（代表）

製造（輸入先）

パシフィック ホスピタル サプライ社

[Pacific Hospital Supply Co., Ltd.]

台湾

[Taiwan]